

#05_寧音だってもっと良い感じにできるし！～寧音のパイズリフェラ～

★…寧音

★「おじゃましまーす…」

★「って寝てた？ ごめんごめん！」

★「検査とか色々あるんだもんね。お疲れだったら…すぐに帰るけど…」

★「ううん、こういう時こそ身の回りのお世話をするのが
彼女のつとめだよっ！」

★「それに今日は…望海さん、来ていないみたいだし。ちょうどいいしね！
ふふっ！」

★「ううん、こっちの話！ こっちの！」

★「そ・れ・よ・り・も～」

★「んふ～」

★「えへへ、これは特別なハグ。2人つきりだからできる特別なハグだよ」

★「はあ～…ずっとこういう風にぎゅーってしてあげたかったんだあ。えへへ♪」

★「ほら、この前は望海さんがあなたを気持ちよくしたでしょ？」

★「だから今日は寧音が気持ちよくしてあげようかなーって。
ほら、寧音こそが本物の彼女な訳だし？」

★「…いいよね？」

★「うん、ということだから！ それで決定！」

★「今日はやりたいこともあったしね～。
疲れたあなたを癒やす、とっておきのやつ！」

★「ほらほら、この前望海さんがあなたのおちんちんを舐めたでしょう？
寧音もあれをやってあげようかな～って思ってね！」

★「でもねでもね！ ただ同じことをするわけじゃないんだよ？
寧音だってもっと良い感じにできるし！」

★「こんな風にすれば…ね？」

- ★「えへへ…こうして裸を見せるのは…初めてだったかな？」
- ★「ううん、いいんだよ。寧音はあなたの彼女さんなんだから…
これくらい、全然恥ずかしくないもん♡」
- ★「むしろ…ずっと見てほしいって言うか…なんて…えへへ」

- ★「って、もうおちんちん大きくなってし！ ふふ！ 嬉しいなあ」
- ★「そ、それじゃあ早速…ね？」
- ★「うふふ♡ 寧音ね、いろいろと考えてみたんだ～」
- ★「それでね…望海さんを超えるには、これを使えばいいかなって思って」

- ★「そう…おっぱい♡ 大きさと柔らかさには結構自信があるの」
- ★「そういうことだから、これであなたのおちんちんを
サンドイッチしてあげようと思って」

- ★「えへへ…いいよね？」
- ★「じゃあ、いくよ～♡」
- ★「ふう…ふう…こうして上下に動かして…」
- ★「ふふ、どう？ 柔らかいのには包まれて、気持ちいいでしょう？」

- ★「あなたを気持ちよくするためにいっぱい調べて、練習してきたんだから♡」
- ★「ふふ…おっぱいすりすりされて…気持ちいい～ね～♡」
- ★「すりすり～…すりすり～…
寧音のおっぱいがあなたのおちんちんを食べちゃってるよ～？」

- ★「ふう…ふう…すりすり～ぱんぱん♡ すりすり、しゅるる～♡
気持ちいい～気持ちいい～♡」
- ★「ふう…ふう…おっぱいに包まれて、おちんちん…幸せそうだねえ。
寧音も、あなたを幸せにできてとっても嬉しいよ…えへへ♡」

- ★「んっ…ふう、ふう♡ はあ、ふう…気持ちいい？
んんっ、はあ♡ はあ♡ ふう♡」
- ★「ふふ、まだまだ気持ちよくする方法、考えてるからね～」

- ★「そういうわけで…」
- ★「んっ…れる、れ～…んふう、れ～…」
- ★「えへへ、おちんちんが、よだれでテカテカになっちゃったねえ～」

- ★「これで～おっぱいを動かしたら」
- ★「ふふ…よだれで滑って、すごい気持ちいいでしょ？」
- ★「ふう、んふっ、はあ、はあ、ふう、ふっ…んん、はあ、えへへ♡
気持ちよさそうな顔」

- ★「ふう…ふう…えへへ…どろどろになったおちんちんをおっぱいで…」
- ★「ぎゅ～～～っ♡ 気持ちいいねえ♡」

- ★「でもまだまだあるからね～！ ここからはお口で～…はあむ」
- ★「んぐっ…！ んちゅっ、はふう…ふうっ、んじゅっ、じゅぽ…じゅぞぞ…
じゅりゅ、じゅぞぞ…んじゅ、じゅぽ、じゅぽっ…んふっ…
んじゅぽぽぽっ！」

- ★「じゅりゅっ…んっ…ふうっ！ んじゅりゅ…じゅりゅりゅじゅぞぞ…
んじゅ、んふっ、んんっ…ふうっ♡
んちゅぶぶ…ふあっ…じゅりゅ…じゅりゅりゅ…！」

- ★「はふっ…んっ…んふうっ…んじゅりゅっ…んちゅっ…じゅりゅ…
ぶあっ…ちゅうっ…んちゅ…♡ じゅぽっ♡ じゅぽっ♡
じゅぽぽっ♡ んじゅううっ♡」

- ★「んふっ…ふう…えへへ…あなたのおちんちん…すっごく熱い…」
- ★「こうして胸の間に挟んで舐めていると、
あなたと1つになった気がしてすっごく嬉しい」
- ★「もちろん…本当の意味で1つになる方法は…別に、あるけれど…」

- ★「それは望海さんとの勝負に決着がついてから…ね？」
- ★「寧音はそういところ結構しっかりしてるんだから～」
- ★「だから…今は…おっぱいとお口で気持ちよくするからね♡」
- ★「いくよ～？」

- ★「んふっ…！ んちゅっ…じゅぽ…じゅぞぞ…んふっ♡
んちゅ…んむっ…んじゅっ、じゅりゅ…じゅりゅりゅ…」

★「んんっ♡ んふっ…じゅ、じゅりゅりゅ…んちゅ…んふうっ…
ふあっ…ふう、はあ…はあ…んじゅりゅりゅ…じゅりゅ…
んちゅっむちゅぶああっ…」

★「んっちゅ！ んっちゅ！ んふふっ！
んじゅ…すりすり…すりすり…はああ…はあ…はあ…
本当にあなたのおちんちん…熱くて素敵♡」

★「んじゅ…んちゅりゅりゅ…じゅぼ…ぶはあ…んふうっ…なって…
なってえ…たくさん気持ちよく…なってっ♡」

★「柔らかおっぱいで包まれて…
おちんちんからたくさんお汁を出してね♡
んじゅりゅ…じゅりゅ…じゅりゅりゅ…んふっ…はあっ…！
んふっ、じゅりゅ…じゅりゅりゅりゅりゅ…！」

★「ふう…はあ…はあ…んちゅっ…ちゅううっ…ちゅりゅっ！
ちゅっ！ ♡」

★「ふう…ふう…えへへ、あなたのおちんちん…
ビクンビクンって寧音のおっぱいの中で震えてるよ？」

★「えへへ、そろそろ…ぴゅるぴゅる～ってしたいのかな？」

★「いいよお…寧音のおっぱいにびゅりゅびゅりゅ～って出しちゃおう♡」

★「寧音もお…あなたが最高に気持ちよくなれるよう頑張るからねっ！」

★「ぶじゅっ…じゅりゅりゅ…んじゅっ…じゅっ！ じゅぼっ…じゅぼっ！
じゅりゅりゅりゅりゅっ！」

★「んふっ…出して…出して…出してえっ！
熱いドロドロ精子を、寧音のおっぱいに…お口に…
たくさん出してえっ！」

★「んじゅっ…んふっ…じゅぼっ…じゅちゅ…んじゅっ！
じゅりゅりゅりゅりゅ…！ んぶはっ…んふっ…」

- ★「はあっ…大きく…大きくなってきたねえ…
もう発射準備寸前って感じだねえっ…！
んじゅりゅ…じゅりゅ…んふっ…じゅりゅりゅう！」

- ★「ほら、ほら、ほら、ほら♡ イキそう？ イキそう？
イク、イク、イク、イク♡」

- ★「ほら、らそう？ らそう！
あなたの気持ちいい汁と、寧音のよだれでじゅくじゅくになった
おっぱいに…出そう！」

- ★「ほら、気持ちいいのが高まってえ…イク♡ イク♡ イク♡ イク♡」
- ★「ほら、3…2…1…♡」

- ★「ああっ！ 出た…出たあっ！
びゅるびゅるってえ…熱いのが…んんっ♡」

- ★「んふっ…んっぐっ…んじゅっんぶふっ…んんむっ…んんふうう…♡」
- ★「はふう…あんっ…んぐっ…んあっ…はあ…はあ…ふうっ…♡」
- ★「ふうっ…んっ、ぐっ…ぐっ…ぐっ…ぷはあ…」

- ★「えへへ…あなたの精子…飲んでみたかったから」
- ★「えへへ…すごく濃くて…あなたの匂いが体中に広がる感じ…♡
おいし…♡」

- ★「ありがとね。寧音のおっぱいでイッてくれて…」
- ★「あなたが気持ちよくなってくれて、とっても嬉しい♡」

- ★「またおっぱいでしてほしくなったら、いつでも言ってくれていいからね」
- ★「だって寧音は、あなたの彼女さんだもん。いつだって、応えるからね♡」